

野尻抱影先生を悼む

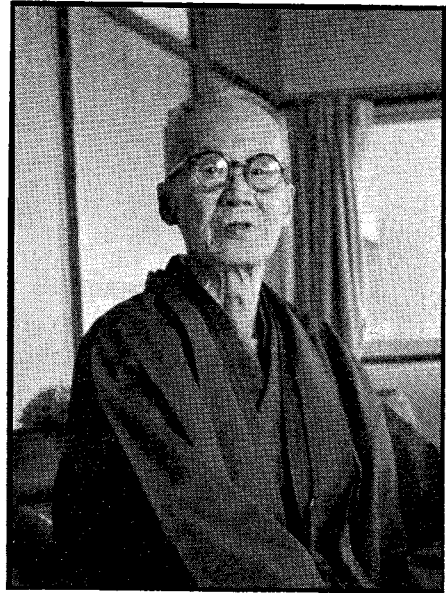
弔 詞

半世紀以上の永きにわたって、私共に星の世界への限らない興味をかき立てて下さった野尻抱影先生は、去る10月30日、享年93才で御他界されました。多数の著作を通じて、多くを教えられて来た私共にとって、哀悼の念耐え難いものがあります。

先生は、中学時代、オリオン・大犬座の絢爛たる“星曼荼羅”に魅せられたことがきっかけで、星の世界に入られたと聞いております。早稲田大学英文科在学中に、ギリシャ・ローマ神話と星との深い結びつきを知り、更には甲府中学英語教師時代の明治43年、壮麗なハレー彗星のドラマを観望されて以来、先生はすっかり星々に魂を奪われたようです。

大正14年の処女作「星座巡礼」以来、「星座神話」、「日本の星」、「星三百六十五夜」、「星と東西文学」を経て、最近では「星と東方美術」、「星・古典好日」など多数の著作があります。それらの著書で、世界各地に伝わる星の神話や伝説・文学・詩歌・美術を天文学の最新知識と結びつけて、丹念に分析・考証・解釈されました。その流麗な筆致とあいまって星の世界とかかわり合うことの喜びを私共は教えられました。また、古来から伝承されている星の和名数百種を発掘・収集され「日本星名辞典」を著し、私共に、日本固有の民族性をあらためて認識させて下さいました。他方では、著述活動のみに留まらず、「ロング・トム」と名付けられた愛用の望遠鏡で直接観測もされ、昭和10年には第9惑星Plutoに「冥王星」なる優雅な名前も付けられました。

今日の天文学者・アマチュア天文家の中に、これらの多彩な著作、とりわけ「星座巡礼」によって、星の世界に引き込まれた者が多いことを思えば、先生ほどわが国の天文学の視野を拡げた功績の著しい方はおられないでしょう。このように多彩な著作を通じて、多くの天文愛好家を育成されたことに対し、昨年日本天文学会は、先生に神田記念賞を贈呈致しました。



92才の御高齢をおして、日本天文学会誌「天文月報」に益々冴えた筆致で星座巡りをご執筆下さったのもつい昨年のごことでした。私共は、先生の新著が出る度に、星々にまつわる新たなロマンに感動したものです。新たなお話にもはや接することが出来なくなったことは、私共にとって淋しいかぎりです。しかし、先生がたとえ天に帰られても、先生によって夜空にちりばめられたロマンあふれる星々は、その瞬間を通して先生の物語を私共に永遠に伝えることでしょう。

星は周って再び先生の待ち焦がれた11月。今宵は、オリオン座のあの雄麗な天図が中天に掛り、冥王星が東方に現われます。ここに日本天文学会を代表して、「オリオン霊園」にて、先生が安らかに眠られんことをお祈りします。

昭和52年11月12日

日本天文学会理事長

末元善三郎

野尻正英氏(号・抱影) 号は詩人・前田林外が『金剛経』から案出。

〈略 歴〉

明治18年(1885) 横浜生れ 神奈川第一中学校を経て早稲田大学英文科に学ぶ
 明治38年(1905) 同校卒業 山梨県甲府中学校教諭
 大正元年(1912) 私立麻布中学校教諭

大正7年(1918) 研究社社員 昭和20年ごろまで各種英語辞典・英語教育雑誌の編集長等
 昭和17年(1942) 早稲田大学文学部講師
 ~昭和19年(1944)
 昭和20年(1945) 公職を退き著作活動に入る
 昭和31年(1956) 天文博物館五島プラネタリウム理事
 昭和52年(1977) 10月30日 東京世田谷で歿 93歳